

# 平成15年度 Global ILL Framework (GIF) プロジェクト活動報告

## 1 GIF プロジェクト会議等開催状況

- ・日米両国におけるプロジェクトへの参加状況、日韓 ILL/DD プロジェクト担当者会議など韓国教育学術情報院 (KERIS) との接続、GIF プロジェクト研修会、北米日本研究資料調整協議会 (NCC) 新旧議長との懇談会の実施計画などについて、電子メール等による協議及び意見交換を実施した。
- ・平成16年5月20日開催の平成15年度第2回国際学術コミュニケーション特別委員会において、日韓 ILL/DD の実施内容及び実施スケジュール、国公私立大学図書館協力委員会主催の GIF ワークショップの開催等について協議した。

## 2 活動概要

### (1) GIF プロジェクト参加状況

現物貸借のサービス開始とともに、GIF 参加館は拡大を続けており、参加機関数は平成16年4月12日現在で日本側 85 機関、93 図書館 (内訳：国立大学 52 機関 60 図書館、公立大学 2 機関 2 図書館、私立大学 28 機関 28 図書館、大学共同利用機関 3 機関 3 図書館)、北米側 34 機関、37 図書館であり、平成15年10月以降日本側 6 機関 6 図書館、北米側 1 機関 1 図書館の増加となっている。

### (2) 現物貸借サービス参加状況

現物貸借サービスは、平成15年8月1日から開始した。参加状況は、平成16年4月12日現在で、日本側 36 機関、37 図書館 (内訳：国立大学 29 機関 30 図書館、私立大学 7 機関 7 図書館)、北米側 18 機関 18 図書館であり、平成15年10月以降日本側 8 機関 8 図書館、北米側 1 機関 1 図書館の増加となっている。

### (3) 日韓 ILL/DD プロジェクト

韓国教育学術情報院 (Korea Education & Research Information Service : KERIS) との接続協議

平成15年7月 KERIS 担当者からの国際 ILL 実施についての申し出を受け、NII におけるシステム開発状況及び KERIS との協議経過について確認を行うため、9月8日に NII との打合せを行った。その後、接続協議を始めるにあたって確認すべき点等を取りまとめ、10月31日に KERIS に提示し、電子メールによって大枠の合意が得られたことから、さらに具体的な協議を行うために、日韓 ILL/DD 担当者会議を開催することとした。

日韓 ILL/DD プロジェクト担当者会議

平成15年12月16日に国立情報学研究所において標記会議が開催され、韓国側から Ms. Chandie Kim、Ms. Ji-yeon Kwon、Mr. Gye-yong Ahn (以上 KERIS) 及び Mr. Hyun-il Chong (Orom)、日本側から国大協関係で国際学術コミュニケーション特別委員会総括主査の土屋俊会長補佐、GIF プロジェクトメンバー、国公私立大学図書館協

力委員会関係で慶応大学加藤事務長、国立情報学研究所の宮沢彰教授及び担当者等が出席した。協議内容は、日韓 ILL/DD プロジェクトを進めるにあたっての具体的事項と接続スケジュールについてであった。

協議の結果、日韓 ILL/DD を GIF の第 2 段階と位置付ける事とした他、資料の所蔵確認方法、複写料金、レンディングポリシー、参加の範囲、サービスの範囲等について協議を行い、ほぼ意見の一致をみた。また、スケジュールについては、本格運用までのテスト及び暫定運用の内容及び時期について協議した。協議結果については、合意文書を作成し、双方で確認をした上で、以後の作業を進めることとした。

#### 運用テスト及び暫定運用について

日韓 ILL/DD を GIF の第 2 段階と位置づけたことで、日米 ILL/DD と同じく、ISO ILL プロトコルに準拠したシステム間リンクに基づきプロジェクトを推進することになったが、システムの開発完了が 2005 年 5 月以降とされているため、それまでの約 1 年間については暫定運用期間を設けることが適当であると判断している。暫定運用の開始時期については、NII において KERIS 所蔵データ参照システムが完成した後の 2004 年 6 月を目途とし、KERIS との調整を続けている。また、暫定運用開始前に運用テストを実施する。

なお、暫定運用といういい方は、システム面から見てのことであり、運用面では、料金決済を含めて通常業務として実施できる条件を整えることにしている。

#### ( 4 ) Global ILL Framework ( GIF ) と文献画像伝送システムの活用研修の開催

国際 ILL 担当者のスキルアップを図るために、研修事業特別委員会が平成 15 年 12 月 11 日(東京会場)と 19 日(京都会場)に開催した標記研修において、GIF プロジェクトメンバーが講師となり、GIF の現状と将来計画、GIF 実施上の留意点などについて、謝絶データの調査結果を踏まえた説明を行った。

なお、参加者は東京会場 51 人、京都会場 39 人であった。

#### ( 5 ) GIF ガイド[OCLC 版]Ver.2.0 の発行

現物貸借サービスの開始、文献複写サービスの実施結果及び実務担当者からの要望を踏まえて、GIF ガイドの改訂を行い、平成 15 年 12 月第 2 版(学術文献普及会刊)を刊行した。改訂方針としては、現物貸借業務関連情報の追加と実例を記述したことなど、実務に沿ったかたちで業務担当者の参考となるようにしたことである。

#### ( 6 ) Z39.50 ターゲット情報の提供

日米双方において、Z39.50 (ISO23950) サーバ機能をもつ OPAC について、ターゲット情報を交換することとし、平成 16 年 2 月 13 日からそれぞれのレンディングポリシーに記載して公開した。現在、日本側 9 機関、北米側 14 機関のターゲット情報が公開されている。

#### ( 7 ) NCC 議長との懇談会の開催

平成 16 年 2 月 9 日に NCC (北米日本研究資料調整協議会)の新旧議長と GIF プロジ

ェクトメンバー等との懇談会が開催された。NCC 議長は、野口幸生氏から Ms. Toshie Marra 氏 (UCLA 東アジア図書館) に交代したが、GIF は引き続き野口氏が担当する。懇談会では、7月に開催された「日米ドキュメントデリバリ評価会議」以降の ILL 状況について意見交換がなされた。

### 3 今後の課題

- (1) 日韓 ILL/DD プロジェクトの実施
- (2) 国際 ILL 担当者のスキルアップ方策
- (3) 北米以外の国々との国際 ILL の展開